

## Ⅱ 第一次選抜学力検査について

### 1 教科別の成績と考察

#### (1) 国語

##### ア 全般について

中学校における国語の学習を通して身に付けた基礎的・基本的な学力、特に自分の言葉で表現する力を中心として、総合的に評価できるよう出題した。また、出題に当たっては次の点に注意した。

- ① 文学的な作品を取り上げ、文章の展開や表現に即して具体的な場面や人物の心情を理解し、表現する力をみる。また、説明的な作品を取り上げ、文章の論理的な展開に注意して、筆者のものの見方や考え方を的確に捉えることのできる、幅広い国語の力を多方面からみる。文章の内容を整理し、まとめながら目的に応じた表現ができる力をみる。作文問題では、二つのグラフの違いをまとめる力や、提示された課題に対する解決策についての的確に表現する力をみる。
- ② 中学校学習指導要領「国語」に基づき、各領域と言語事項を踏まえ、幅広くバランスのとれた出題をするとともに、生徒の学習到達度を適切に評価できるよう工夫する。

問題については、今年度は、漢字についての問題、文学的文章、説明的文章、古典の文章、作文の全5題を出題した。

全体として、基礎的・基本的な知識や読解力を問う問題の正解率は高く、文法や複数箇所から抜き出した内容を指定条件に合わせてまとめて記述する問題の正答率が低かった。

##### イ 問題別の考察

一

平成22年度から漢字の問題を独立させて出題している。読みを答える問題を5問、漢字を書く問題を5問、各2点の配点で出題した。読みを答える問題については全体的に正答率が高かった。

二

椰月美智子による「14歳の水平線」から採った。14歳の加奈太と五人の少年たちが、キャンプの最終日にそれぞれの思いを語る場面である。互いの存在を認め合いながら成長していく登場人物たちの姿は、受検生が追体験できるものであり、共感できる作品であったと考えられる。

問一 空欄に体の一部を表す漢字を書き、適切な慣用句を完成させる問題である。誤答としては「頭」が多く、「肩」の漢字が誤っているものは少なかった。

問五 「リーダーシップがあって足が速い」の中から、動詞をそのまま抜き出して答える問題である。誤答としては、音便について理解が不足しているものが多かった。また、動詞を抜き出す問題であるが、形容詞を含んでいるものも多かった。

問六 「かっこよすぎるじゃないか、ミラクル」という場面での加奈太の見樂留に対する思いを、本文中の表現からまとめる問題である。指示内容を正しく捉え、適切にまとめる力をみようとしたり。減点された解答としては、指定語句を使用するのみで全体として意味の通らない文になっているものが多かった。

三

佐倉統による「学問のツバサ」から採った。平易な語句を用いて、人間の文化と、生き物としての人間の性質について論が展開されており、受検生にとって理解しやすい内容であったと考えられる。

問四 「獲得」と同じ構成の熟語を選んで答える問題である。誤答としては、エが多かった。

問五 「『文字』も、とても不自然な存在だ」という傍線部について、文字が不自然な点と、文字によってできるようになったことを、本文中の語句を使用してまとめて書く問題である。減点された解答としては、文字が不自然である内容が欠如しているものが多かった。

四

「無名草子」から採った。女房たちが集まって風雅の道について語り合っている場面である。平易な表現で書かれており、受検生にとって理解しやすい内容であったと考えられる。

問三 「月の光ばかりこそ侍らめ」について、作者自身の考えを、現代語でまとめて書く問題である。

減点された解答としては、解答用紙の「に楽しむことができると考えているから。」にうまくつながらないものが多かった。

五

A 中学校の「読書と図書館に関する調査」の三つのグラフから、読書が好きかどうかということと、学校の図書館で本を借りた冊数の状況を捉えさせるとともに、本を借りた冊数を「0冊」と回答した生徒たちに学校の図書館をより利用させる方法について、グラフから分かることを踏まえて自分の意見を述べさせる条件作文である。

問一 減点された解答としては、一つのグラフから読み取った事柄のみを述べたものや、二つのグラフについての感想を述べたものがあつた。

問二 減点された解答としては、グラフを踏まえずに自分の意見を述べたものがあつた。表記の面では、誤字・脱字や副詞の呼応関係に乱れがあるものなどがあつた。

ウ 正答率表

大問	1										2						
小問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3		4	5	6
	A	B															
小問別正答率(%)	70	93	89	83	42	64	31	51	65	78	70	78	85	90	88	29	38

3					4			5		
1	2	3	4	5	1	2		3	1	2
						I	II			
79	76	82	47	34	75	89	80	70	62	70

## (2) 数 学

### ア 全般について

出題に当たっては、次の事項に留意した。

- ① 中学校における学習の全体的・総合的な達成度をみるために、数と式、図形、関数、資料の活用における基礎的・基本的な内容をバランスよく出題すること。
- ② 身近な事象をできる限り扱い、数学的な見方や考え方を活用して課題を解決できるようにするとともに、結論に至る推論の過程を的確に表現する力を評価できること。
- ③ 表や補助図を用いて題意を正確に把握できるようにするなど、設問の形式、難易度等に配慮すること。
- ④ 基礎から発展まで段階的に設問を配置し、それに従って考えを進めやすくすること。
- ⑤ 問題を解決するために、多様な考え方が大切であることを示すこと。

受検生の学力を多面的に評価するために、基礎的・基本的な知識・技能の習得とそれらを活用する力をみるよう出題した。

全体として、基本的な計算力や知識・理解をみる設問の正答率は高く、複数の数学的な見方や考え方を組み合わせて課題を解決する設問では正答率が低かった。例えば、複数の図形的性質を活用して線分の長さを求める問題や、二人の学校からの距離をそれぞれ関数で表して、その関係を考察する問題では、正答率が低かった。

条件を的確に把握し、様々な数学的な見方や考え方を活用することにより、知識・技能を有機的に結び付けて課題を解決する力を授業の中で育成することが望まれる。

### イ 問題別の考察

1

小問6問の構成で、中学校1年から3年までの学習内容から、基礎的・基本的な内容についての計算力、理解力をみる問題である。

- (3) 展開の公式を利用して計算する問題で、誤答には、 $1$  や  $1 - 2\sqrt{6}$  など公式を正しく使うことができていないものが多かった。
- (6) 2個のさいころの目の和が5の倍数になる確率を求める問題で、誤答には、目の和が5のときだけを求めて  $\frac{1}{9}$  としたものや、目の積が5の倍数になる確率と間違えて  $\frac{11}{36}$  としたものがあった。

2

読んだ本の冊数を調べた資料について、ヒストグラムを通して、資料の傾向を読み取る力をみる問題である。

- (2) 誤答には、7の半分の3.5や、1～7の真ん中の4としているものが多かった。
- (3) 相対度数から人数を求める問題で、誤答に特に傾向はなかった。

3

商品の売り上げ金額について、数量の関係を数学的に処理し、方程式を作り売値を求める問題である。

- (2) 誤答には、金額の合計である  $(4x+240)(120-x)$  としているものが多かった。

(3) (2) で求めた式を使って二次方程式を作り売値を求める問題である。無回答が多く、誤答に特に傾向はなかった。

4

走っている二人の速さや距離について、式やグラフを使って事象を考察する力や、数学的な考え方をを用いて課題を解決する力をみる問題である。

(1) (ウ)の誤答には、 $y = -100x + 1400$  や  $y = -100x$  など、傾きは合っているが  $y$  切片が正しくないものが多かった。

(2) (ア)の誤答には、すれ違う前の速さである分速 160m としているものが多かった。

(イ)は無回答が多かった。解法としては、二つの一次関数のグラフの交点から求める方法や、すれ違った後に走った距離について一次方程式を作って解く方法などが考えられるが、正答率が5%で、受検生にはやや難しかったと思われる。

5

三角形の合同を証明することや図形の辺の長さを求めることを通して、論理的に考察し表現する力や、図形の性質を活用する力をみる問題である。

(1) 誤答には、 $\angle ACD$ と $\angle ECB$ がともに $\angle ACB + 60^\circ$ になることを適切に表現できていないものや、説明の不十分なものがあつた。

(2) (ア)は条件に合った図形を正しく書き直すことができているならば、 $\triangle CDG$ が $30^\circ$ 、 $60^\circ$ の直角三角形であることから解くことができる問題である。

(イ)は無回答が多かった。 $\triangle BFG$ の $\triangle DCG$ に気付かないと解けないため、受検生には難しかったと思われる。

6

かけ算の九九に関する表の数字を合計する手法について、その意味を理解し数理的に考察する力や、数学的な見方や考え方を活用して課題を解決する力をみる問題である。

(1) **ウ**、**エ**は文字  $a$ 、 $b$  を使って一般化する問題であり、正答率がともに5%で、一般化することが苦手な受検生が多いと思われる。誤答には、**ウ**では $b + 1$ 、**エ**では $a - 1$ としたものがみられた。

(2) (1)の $4 \times 4$ の表で考えた方法を、 $9 \times 9$ の表に用いて考察する発展問題である。(1)で考えた方法を用いなくて、81個の数字を足した受検生も多かったと思われる。

### ウ 正答率表

大問	1						2			3		
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	1	2	3
小問												
小問別 正答率(%)	94	88	58	73	62	59	94	66	55	70	49	24

4						5			6						
1			2			1	2		1					2	
ア		イ	ウ	ア	イ		ア	イ	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	
ア	イ						ア	イ	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	
80	62	77	41	26	5	58	23	0	94	85	5	5	15	20	15

### (3) 英語

#### ア 全般について

中学校学習指導要領及び使用教科書の内容から出題し、英語教育の目指すコミュニケーション能力の育成を十分に踏まえ、中学校における学習活動の成果を総合的に評価できるように配慮した。

出題に当たっては、次のことに留意した。

- ① 言語材料についての知識だけでなく、コミュニケーションを図るための理解や、表現の能力を中心とした英語の運用力を重点的にみること。
- ② 「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」の4領域の学習活動を踏まえて出題し、言語の使用場面や言語の働きなどの内容は受検生のこれまでの学習活動に配慮した身近なものであること。
- ③ 英文を聞いたり読んだりして、話題の概要や要点を把握したり、必要な情報を正確に選択して理解したりする力をみること。
- ④ 自分の考えや気持ちが読み手に正しく伝わるように表現する力をみること。

本年度の英語の平均点は57点であった。

#### イ 問題別の考察

##### 1 (放送を聞いて答える問題)

4領域にわたるコミュニケーション能力の育成を主眼とする学習活動の成果をみるために、放送を聞いて答える問題を設定した。放送の所要時間は11分30秒程度で、放送で英文を聞く前に、日本語で場面・状況・質問を放送し、受検生が問題を読む時間を設けるなど、目的をもって英語を聞き、必要な情報を得ることができるよう配慮した。

##### 1の1

身近で多様な話題についての比較的短い英文の中から、必要な情報を聞き取り、選択肢から適切な正答を選ぶ問題である。英文の特定の一部分ではなく、全体の概要を理解することによって正答を選択することができるように配慮した。(1)～(5)の平均正答率は67%であった。

- (1) 慎と友だちのジュディとの対話文を聞き、四つの絵の中から、慎が土曜日の午後にしたことを選択する問題である。「morning」、「afternoon」など時間帯を表す言葉と、「karaoke」、「fishing」、「bowling」などの語句を正確に聞き取り、相互関係を判断する力が求められる問題である。
- (2) 拓也と留学生のケイトとの対話文を聞き、拓也が部活動の記念写真の中で、親友の浩が写っている場所を絵の中から選択する問題である。場所や位置を表す語句を正確に聞き取る力が求められる問題である。
- (3) アメリカの人気歌手のダイアナが出演するラジオ番組の放送を聞き、ダイアナが日本滞在中に、コンサートを行う日数を聞き取る問題である。曜日とダイアナの予定から、日数を正しく判断しなければならず、正答率は低かった。
- (4) 健と留学生のナンシーとの対話文を聞き、その最後に付け加えるのにふさわしい文を、四つの英文の中から一つ選ぶ問題である。談話の流れを正しく聞き取った上で、健が話すであろう内容を推測し、選択肢の英語を正確に理解して答えるという複数の領域にまたがる力が必要である。
- (5) アメリカから来たグリーン先生の話の話を聞き、話の内容を正しく表している文を、四つの英文の中から一つ選ぶ問題である。グリーン先生の高校生の時の日本での体験と将来の夢について要旨を聞き取り、短時間で選択肢の英語を読んで答えるという複数の領域にまたがる力が必要である。

##### 1の2

オーストラリアでの語学研修を終えて帰国した中学生の美樹が、帰国後、ブラウン先生に語学研修中の体験を話す場面を設定している。まとまりのある英文を聞いて内容を正確に把握し、その中から必要とされる情報をまとめる力や要点を的確に把握する力が必要である。

(1)、(2)の平均正答率は58%であった。

- (1) 全体の概要を踏まえ、本文の内容に合致するものを、四つの絵の中から一つ選ぶ問題である。

(2) 本文の内容について、英語での設問に英語で答える問題である。正しく情報を捉え、聞き取った内容を踏まえて適切に書く力が必要である。①については、「talk」、「talks」、②については、「watch」などの誤答が多かった。基本的な語の綴りに課題があることに加えて、まとまりのある説明文から必要な情報を正確に聞き取ることに課題がある受検生が多いことが推察される。

## 2

様々な場面と話題から構成される比較的短い英文を読み、概要や要点を的確に読み取る力をみる設問と、短い対話文の内容を把握し、空白部分を補充する表現を選択する設問からなる問題である。「語」や「定型表現」の知識の有無の確認にとどまることなく、対話の場面や状況、相手の意図を捉え適切に応答する力を測る「談話能力」を重視した問題である。問題1～4の平均正答率は47%であった。

- 1 TomとMikaが待ち合わせ場所で対話している場面である。Tomの「It's already noon!」と「We have only twenty minutes.」の2文から、twelve twentyという時間を導く問題である。「twelve」という数字の綴りを正確に書くことができていない誤答が多かった。
- 2 日本の四季を説明する文から「seasons」というキーワードを書く問題である。「spring」、「summer」、「fall」、「winter」から、季節を表す英語「season」を容易に想像できるが、fourの後にくることから「seasons」と複数形にしなければならないが、「season」と書く誤答が多かった。
- 3 与えられた言語の使用場面を正しく理解し、ある意見に対して、反対意見を述べる時の表現を選択させる問題である。場面の把握や、「I understand your idea, but～」と相手の意見を尊重した上で、自分の意見を加えるという表現についての理解が不十分だったことが推察される。
- 4 「Can you take it to him, please?」という依頼に対して、「All right, I will do that.」と応答する会話の流れを理解できる力が必要である。

## 3

様々な言語材料を用いたまとまりのある英文を読んで、その内容を理解する力をみる問題である。中学校学習指導要領の「読むことの言語活動」に記されている「物語のあらすじや説明文の大切な部分などを正確に読み取ること」を主眼に置き、長文が構成されている。英文は、海外に住む日本人の数の変化について、誠がインターネットで調べてグラフと表を作り、英語の授業の時間に発表しているという設定である。問題1～3の平均正答率は74%であった。

- 1 本文全体の概要を踏まえた上で、本文中の空所に入る適切な語を選択する問題である。表にあるデータを本文と関連付けて的確に英文を理解する力が必要である。
- 2 本文全体の概要を踏まえた上で、表の空所に入る適切な国名の組合せを選択する問題である。表中の国名や人数などのデータを本文と関連付けて的確に英文を理解する力が必要である。
- 3 本文中のグラフや表も含め、誠の発表の内容を整理し、本文の内容を正しく表す文を選択する問題である。

## 4

まとまりのある長めの英文を読んで、その内容を理解する力をみる問題である。中学校学習指導要領の「読むことの言語活動」に記されている「話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり賛否やその理由を示したりなどすることができるよう、書かれた内容や考え方などをとらえること」及び「話すことの言語活動」に記されている「聞いたり読んだりしたことなどについて、問答したり意見を述べ合ったりなどすること」を踏まえ、長文が構成されている。

場面は、中学生の健太がアリの研究を通して学んだことについて、英語の授業でスピーチをしているという設定である。テーマは、中学校学習指導要領にある「多様なものの見方や考え方を理解し、公正な判断力を養い豊かな心情を育てるのに役立つこと」に基づいたものである。本文の英語使用語彙数は580語程度であるが、親しみやすい題材であること、対話の展開が分かりやすいことなどもあり、受検生の多くが、限られた時間内でも、まとまりのある長い英文を読んで、その内容を理解する

力が身に付いていることが判明した。

- 1 健太がアリに興味をもつようになった最初のきっかけを正しく表しているものを、四つの絵の中から選択する問題である。本文中の第一段落の「I found a book about ants in my city library. The book taught me a lot of interesting facts about them. Since then, ～」から「本」であることが分かる。
- 2 本文の流れを踏まえた上で、which way に続く不定詞を選択する問題である。
- 3 本文の流れを踏まえた上で、文脈に合うように、空所に入る適切な英文を選択する問題である。
- 4 本文の内容について、英語での質問に英語で答える問題である。正しく情報を捉え、読んだ内容に即して適切に書く力が必要である。
- 5 本文の内容に合致する文を、六つの英文から二つ選択する問題である。イやオを選択する誤答が多かった。本文全体の概要を把握した上で、必要な情報が記述されている部分を的確に捉えて読み取る力を育成する必要がある。
- 6 本文の設定に沿って、ALTとの対話形式で、「自分の興味があることとその理由」を英語で表現する問題である。受検生自身が自分の興味があることについて英語でスピーチを行うという場面設定であるが、本文中のアリについての表記などをそのまま用いるような解答もみられた。

**5**

対話文の一文を、前後の意味が通じるように、与えられた語句を整序し答える問題である。概要の把握及び豊かなコミュニケーションを図るために欠かせない統語力が必要とされる。問題1、2の平均正答率は32%であり、難易度が高かった。

- 1 「how often」を疑問詞として「they practice」と文が続く間接疑問文として語句を正しく整序できるかを問う問題であるが、「how they often practice」という誤答が多かった。
- 2 「anything else we should bring」という関係代名詞の省略された後置修飾の形を問う英文である。「Is there we should anything else」という後置修飾が理解できていないと推測される誤答が多かった。また else の意味、使い方にも慣れであることが推測される。

**6**

「身の周りのロボット」について、受検生がALTと話しているという場面設定で、対話に沿って、①から④の空欄に、自分の意見を1文又は2文の英語で書く問題である。①、②では、「自分の意見」と「その理由」について、③では、自分の意見と反対の意見について、なぜそのように考えるのかを問い、考えを深める流れとなっている。また④では、「将来自分が欲しいと思うロボット」について、自分の考えを具体的に書くようになっている。①、②のように、身近な事柄について、自分の意見を理由も含めて表現することはできるが、③のように、自分と反対の意見を持つ相手の立場に立って、理由を正確かつ適切に表現するのは難しかったと推察される。全体としては、動詞や目的語の欠如、冠詞の誤用、語順など文法・語法的な正確性に欠ける解答が多かった。

**ウ 正答率表**

大問	1										2				3		
	1					2					1	2	3	4	1	2	3
	1	2	3	4	5	1	2										
小問別 正答率(%)	74	64	50	63	84	75	50	47	61	40	44	54	50	81	68	73	
4						5		6									
1	2	3	4		5	6	1	2	1	2	3	4					
			1	2													
81	57	54	76	72	55	37	41	24	70	53	31	39					

## (4) 理 科

### ア 全般について

理科の各分野・領域から、観察、実験に基づく内容を、次の①～⑤に留意して出題した。

- ① 自然の事物・現象及び自然科学における基礎的・基本的な内容についての知識・理解
- ② 観察、実験の基本的な操作及び科学的に調べる能力と態度
- ③ 観察、実験の結果を基にした科学的な思考力
- ④ 自然の事物・現象についての科学的な見方や考え方
- ⑤ 日常生活と関連付けて科学的に考える力

今年度から、大問 $\boxed{1}$ を総合問題とし、大問 $\boxed{2}$ から $\boxed{5}$ は理科の各領域からそれぞれ出題した。

全体的にみると、基礎的・基本的な知識・技能や観察、実験の基本的な操作に関わる問題の正答率は高く、思考力をとめない、知識・技能を活用する問題の正答率は低い傾向がみられた。また、文章が適切に読み取れていなかったり、理解していても適切に表現できていなかったりしている解答がみられた。

教科書の内容の確実な理解に加えて、説明したい内容を正しい用語や数式等を用いて、要点を分かりやすく表現する能力の育成を図るため、言語活動を充実させた指導が必要である。

### イ 問題別の考察

$\boxed{1}$

中学校1年生から3年生までの各分野・領域の学習内容から、科学的な見方や考え方を総合的にみる問題である。大問としての平均正答率は76%であった。

- 4 (1) モノコードの弦をはじいたときの音の振動についてコンピュータに入力したとき、振幅を示す部分についての選択問題である。誤答としては、「d」の負の振動の最大値から正の振動の最大値までの部分を選択したものが多かった。

$\boxed{2}$

中学校2年生の第2分野・生物領域からの出題で、だ液によるデンプンの変化を調べる実験を取り上げ、消化酵素のはたらきについて、科学的な見方や考え方をみようとした問題である。大問としての平均正答率は73%であった。

- 5 「だ液がデンプンを分解するときに体温より低い温度では、デンプンは分解されにくい」という仮説を検証するための適切な対照実験を選ぶ問題である。実験の内容を適切に理解できていないことから、様々な解答がみられた。実験のそれぞれの試験管の条件とその目的をしっかりと理解する力が必要である。

$\boxed{3}$

中学校3年生の第1分野・化学領域からの出題で、いろいろな金属板を用いて電池を作る実験を取り上げ、電池に係る総合的な見方や考え方をみようとした問題である。大問としての平均正答率は68%であった。

- 2 一極になった金属板を金属の原子の記号で問う問題である。2つの金属のうちどちらが一極になるか判断できていない解答が多く、さらに「Zu」、「Zn<sup>2+</sup>」のような原子の記号を正しく書けない誤答もみられた。
- 3 銅板の表面から発生する気体を言葉で書く問題である。誤答としては、「塩素」、「塩化水素」、「塩酸」、「酸素」が多かった。

- 4 (1) マグネシウムイオンが、イオン式で正しく書けない解答が多かった。誤答としては、「M<sup>+</sup>」、  
「Mg<sup>+</sup>」、「Mg<sup>2-</sup>」、「Mg<sup>+2</sup>」が多かった。また、「Cu」、「Cu<sup>2+</sup>」、「Zn<sup>2+</sup>」  
という誤答もみられた。
- 5 実験結果から、各金属板での電子のやり取りと導線内の電子の動きについて穴埋めする言葉の組み  
み合わせを選ぶ問題である。導線内の電子の向きは比較的正しく理解できていたが、各金属板で電  
子を受け取るのか失うのかの適切に判断ができていない誤答が多かった。

4

中学校1年生の第2分野・地学領域からの出題で、地層の観察を取り上げ、観察結果から科学的な見  
方や考え方をみようとした問題である。大問としての平均正答率は76%であった。

- 2 地層の堆積した年代を推定できる「示準化石」についての説明を選ぶ問題である。「ア」の「狭  
い範囲にすんでいて、短期間に栄えて絶滅した生物の化石」という誤答が多かった。地層の堆積し  
た年代を推定するためには、「広い範囲」と「短期間」という科学的な見方が必要である。

5

中学校2年生の第1分野・物理領域からの出題で、電熱線を用いて水の温度変化を調べる実験を取り  
上げ、基礎的・基本的な知識・理解の定着と、その知識・理解を活用する力をみようとした問題である。  
大問としての平均正答率は52%であった。

- 1 電熱線に流れる電流の大きさを、電力を求める式を用いて求める問題である。6÷3を計算して2  
という誤答が多かった。
- 2 表をもとに電熱線を用いたときの時間と水の上昇温度の関係をグラフに描く問題である。水の上  
昇温度ではなく、水温を縦軸にした誤答が多かった。
- 4 100gの水の温度を4.0℃上昇させるために必要な熱量を求める問題である。問題の中に数値が多  
くあり、どの数値を使って計算すればよいか戸惑ったのか、無解答のほか様々な解答がみられた。
- 5 6V-6Wの電熱線の両端に6.0Vの電圧を5分間加え続けたときに発生する熱量を求める問題であ  
る。熱量を求める式で代入する時間を秒に変換せず、6×5を計算して30とする誤答が多かった。  
また、無解答もみられた。
- 7 6V-6Wと6V-3Wの電熱線を直列につないで6.0Vの電圧を加えたとき、5分後の水の上昇温度の記  
述として適切なものを選ぶ問題である。誤答としては「ウ」が多かった。

#### ウ 正答率表

大問	1								2											
	1		2		3		4		1		2		3		4		5		6	
小問	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2
小問別 正答率(%)	77	71	83	87	93	80	45	71	74	82	78	80	60	80	71					

3						4					5										
1	2	3	4		5	6	1	2		3	4		5	1	2	3	4	5	6	7	
			1	2				化石	説明		つくり	分かること									
81	51	61	50	82	60	87	86	81	63	81	70	72	87	57	47	83	44	54	82	21	

## (5) 社会

### ア 全般について

本年度も中学校社会の3分野からほぼ均等に出題し、中学校で学習する基礎的・基本的な内容に関する知識・理解とともに、資料活用能力や考察力、表現力をみようとしました。大問数は3題とし、短文で答える記述式問題は、歴史的分野、地理的分野、公民的分野ともに各1問の計3問とした。全体の問題数は37問とした。地図やグラフなど、社会科学習の基本となる資料を活用して答える問題や、考察した結果を記述する問題など、本年度も学習指導要領に基づいて中学校で進められている学習を意識して出題した。また、知識・理解に係る問題についても、単に用語を答えさせるのではなく、事象の特徴や理由など、より深い内容を問う出題を多くした。検査の結果は、平均が62点であった。分野別の正答率は、歴史的分野64%、地理的分野57%、公民的分野65%となった。正答率が低かった問題は、歴史的分野では、開国期における日本の貿易相手国を符号選択する問題で、正答率は20%であった。地理的分野では、自動車、鉄道、船による輸送量の割合の変化について適切な語句を組み合わせる問題が27%と低かった。また、公民的分野では、国の予算案の議決について、与えられた語句を使って適切に表現する問題が31%と低かった。

### イ 問題別の考察

#### 1

歴史的分野からの出題で、ある生徒が歴史学習のまとめとして、日本の主な出来事とそれらが人々の生活に与えた影響について作成した略年表を題材にして、我が国の歴史の大きな流れと各時代の特色についての基礎的・基本的な内容を問うとともに、それぞれの歴史的事象を、相互に関連付けて理解しているかどうかをみようとしました。

4 源頼朝が朝廷に守護・地頭の設置を認めさせた出来事の世紀を問う問題で、時代の流れを世紀という観点から正しく理解しているかどうかをみようとしました。誤答としては、「13世紀」としたものが多かった。

7(1) 資料を基に、工場制手工業(マニュファクチュア)の仕組みについて、論述する問題で、与えられた語句を使って適切に表現することができるかどうかをみようとしました。誤答としては、「人を雇う」工場がつくられたことを指摘していないもの、「分業」によって製品が作られたことを表現していないものが多かった。

7(2) 表を基に、開国期における日本の貿易相手国を符号選択する問題で、1860年代初頭に起きたアメリカの南北戦争が日本の貿易に与えた影響について正しく理解しているかどうかをみようとしました。誤答としては、ウとしたものが多かった。

10 与えられた略年表の空欄に当てはまる語句を問う問題で、農地改革について正しく理解できているかどうかをみようとしました。誤答としては、「地租改正」としたものが多かった。

#### 2

地理的分野からの出題で、ある生徒が交通や通信の変化について調べたメモを題材にして、地理的分野の基礎的・基本的な内容を確認するとともに、複数の資料を関連付けて読み取る力や、地理的な見方

や考え方が身に付いているかどうかをみようとした。

- 1 与えられた文章の空欄に当てはまる語句を問う問題で、サヘルについて正しく理解しているかどうかをみようとした。誤答としては、「サハラ砂漠」としたものが多かった。
- 6 表を基に、ブラジルの携帯電話契約数の伸び率、国民総所得及び一人当たりの国民総所得を符号選択する問題で、ブラジル、日本、中国、アメリカそれぞれの経済成長の様子について正しく理解しているかどうかをみようとした。誤答としては、イとしたものが多かった。
- 10 地形図を基に、城下町の道路の様子について、与えられた語句を使って適切に表現できるかどうかをみようとした。誤答としては、「見通しがよい」としたものが多かった。
- 11 グラフを基に、適切な語句を組み合わせる問題で、自動車、鉄道、船による輸送量の割合の変化について正しく理解しているかどうかをみようとした。誤答としては、エまたはオとしたものが多かった。

**3**

公民的分野からの出題で、ある中学校の生徒たちが、「様々な立場から社会を考える」というテーマについてまとめたレポートを題材にして、社会的事象についての基礎的・基本的な内容の定着度や、諸資料から読み取った事柄を適切に表現する力が身に付いているかどうかをみようとした。

- 1 第一次世界大戦の終結直後に起きた人権に関することがらを符号選択する問題で、歴史的分野と関連付けて公民的分野を理解できているかどうかをみようとした。誤答としては、イとしたものが多かった。
- 5 住民が首長と地方議会の議員（地方議員）という2種類の代表を選ぶ制度の名を問う問題であった。誤答としては、「二院制」や「比例代表制」としたものが多かった。
- 6 国の予算案の議決について、与えられた語句を使って適切に表現することができるかどうかをみようとした。誤答としては、予算案以外の他の議決や、憲法改正の手続きについて表現しているものが多かった。
- 7 与えられた文章の空欄に当てはまる語句を組み合わせる問題で、租税について正しく理解できているかどうかをみようとした。誤答に特に目立った傾向はなかった。
- 9 労働者の募集などにおける性別を理由とする差別の解消に関する法令の名を問う問題であった。誤答に特に目立った傾向はなかった。

**ウ 正答率表**

大問	1													2					
	1	2	3	4	5	6	7		8		9	10	11	1	2	3	4	5	6
							1	2	1	2									
小問別 正答率(%)	66	89	71	37	79	80	47	20	60	61	82	58	95	44	62	52	86	70	41

  

2						3											
7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	
																1	2
73	61	75	33	27	75	51	70	83	96	51	31	52	86	60	69	66	73

## 2 出題の意図

### 国 語

国語を適切に表現し正確に理解する能力をみるために、各領域と言語事項（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）から、基礎的・基本的な内容に関して出題した。

今年度は、**二**及び**三**で、文章の展開に即して内容をとらえ、目的に応じた的確にまとめる力をみようとしました。**四**では、注釈に基づいて古文を的確に読み取る基礎的な力をみようとしました。また、**五**では、グラフを複数提示し、グラフから分かることと、グラフの内容を踏まえて課題を解決するための方法を的確に表現する力をみようとしました。

### 数 学

数量や図形などに関する基礎的・基本的な知識・理解、数学的な技能及び数学的な見方や考え方をみるために、「数と式」、「図形」、「関数」、「資料の活用」の各領域から出題した。

今年度は、**4**で、走っている二人の速さや距離について、表や関数のグラフを利用して問題を解決する力をみようとしました。**5**では、図形が合同であることを証明し、その性質を用いて考察する力をみようとしました。また、**6**では、表の数字を合計する手法について、その意味を理解し数理的に考察する力や、数学的な見方や考え方を活用して課題を探究する力をみようとしました。

### 英 語

英語によるコミュニケーションの基礎的・基本的な能力をみるために、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」の4領域の学習活動を踏まえて出題した。

今年度は、**2**で、具体的な言語の使用場面に合った適切な表現で応答する力を、**3**では、必要な情報や大切な部分などを正確に読み取る力を、**4**では、まとまりのある英文を読んで、大まかな流れをつかみながら、登場人物の意向や考えを読み取る力をみようとしました。また、**6**では、身近な場面における出来事について、自分の考えや気持ちが読み手に正しく伝わるように表現する力をみようとしました。

### 理 科

自然の事物・現象についての観察や実験を通して、基礎的・基本的な内容についての理解力、科学的な思考力及び表現力をみるために、理科の各分野・領域から出題した。

今年度は、**2**で、だ液によるデンプンの変化を調べる実験や観察を取り上げ、実験操作及び消化についての基本的な事項や、実験結果の考察について総合的な見方や考え方が身に付いているかをみようとしました。また、**5**では、電熱線の発熱量の実験を取り上げ、実験結果を処理する技能、電力量とジュール熱についての基本的な事項及び科学的な見方や考え方が身に付いているかをみようとしました。

### 社 会

社会科の基礎的・基本的な内容についての理解力、また、地図やグラフ、図表などの資料を活用する技能及び思考力や表現力などを総合的にみるために、歴史、地理、公民の各分野から出題した。

今年度は、**1**の歴史的分野で、各時代の特色について、基礎的・基本的な内容を理解しているかをみようとしました。**2**の地理的分野では、複数の資料を関連付けて読み取る力や、地理的な見方や考え方が身に付いているかをみようとしました。また、**3**の公民的分野では、社会的事象についての知識や概念の理解とともに、諸資料から読み取った事柄を適切に表現する力が身に付いているかをみようとしました。